

令和5年度
日本臨床歯科補綴学会
学術大会プログラム・抄録集

咬合が健康長寿の要



日 時： 2023年8月6日（日）9：50 ～ 16：30

場 所： 東京国際フォーラム D7
東京都千代田区丸の内 3-5-1

大 会 長： 浅野 栄一朗
準備委員長： 森野 隆
実行委員長： 渡辺 正宣、宮本 績輔

後 援： 新東京歯科技工士学校、新東京歯科衛生士学校、
博多メディカル専門学校、
㈱ CARES ソリューションセンター



令和5年度日本臨床歯科補綴学会 総会・学術大会の開催によせて

令和5年度学術大会大会長
日本臨床歯科補綴学会理事長

浅野 栄一郎

我が国は、既に2007年に世界初の超高齢社会へ突入し、現在も高齢化率は世界第一位を独走しており（29%）、更なる国民の健康長寿を達成出来る高度な歯科医療が強く求められています。そこで今年度の学術大会のメインテーマを『咬合が健康長寿の要』とさせていただきました。

また、近年のIT分野の発展に相応して、歯科医療の現場もめざましく進化しており、当学会はいち早くこの急速な変化に対応し、患者さんに還元しようと努めています。歯科臨床では、これまで以上に多角的な視野で歯科医療全体を捉えて問題点を抽出し、根本的な対応策を探究して行くことが大切です。本学会の使命は、顎機能に調和した咬合の再構成と機能保全のための診断と治療の基準を明確に示し、本筋を見据えた臨床上の重要事項を広く伝えることです。これにより、誰もが安全で予知性の高い治療を行うことができ、国民の健康長寿に貢献できると考えています。

適正な治療による歯列の再建と保全は、顎口腔系のみならず脳や全身を活性化し、生活の質、さらには人生そのものに大きな影響を及ぼします。真に患者さんの役に立ち満足していただく事が、医療に携わる私達の喜びです。この思いを共有して、共に楽しく学び、皆で切磋琢磨していくのが本学会の真骨頂です。

今回は長年にわたり咬合を重視した歯科臨床を探求し続け、これまで多くの歯科医療者を導いて来られた本多正明先生と筒井照子先生に本学会顧問の小出 馨先生を加えた3名の先生方による特別講演を企画致しました。先生方には咬合治療の真髓をじっくりとお話しいたします。私たちにとって歯科医療の道標が示される貴重な機会になることでしょう。また、歯科医療の現状でおさえおくべきタイムリーな事項を、教育講演6題を通してご一緒に確認したいと考えております。

本学会の活動が迷いの多い日常臨床の指標となり、ご参加下さる皆様方の役に立てて、生き甲斐に繋がればと願っております。

プログラム

《 開会式 》 9 : 50 ~ 司会：早川 順満 (青葉台歯科診療所)

開会 の 辞 日本臨床歯科補綴学会副理事長 上林 健
理事長挨拶 日本臨床歯科補綴学会理事長 浅野 栄一郎

《 午前の部 》 10 : 00 ~ 司会：西川 新 (あらた歯科クリニック)

【教育講演 1】 座長：星 久雄 (星デンタルラボラトリー)

歯科技工士の現状と未来

森野 隆 (公益社団法人 日本歯科技工士会 会長)

【教育講演 2】 座長：土肥 博幸 (どひ歯科クリニック)

残存組織の保全と機能回復率の向上を両立させ健康長寿を目指す

田中 希代子 (医療法人社団 Smile Art 理事長)

【教育講演 3】 座長：吉澤 和之 (オーリアラ)

咬合不調和の治療で姿勢も改善する

藤田 良磨 (RYOMA Dental Technician's Office)

【教育講演 4】 座長：村岡 卓也 (むらおか歯科医院)

舌を診て姿勢の乱れから全身への影響に気づく

小山 浩一郎 (Japan United Colleagues 会長)

【教育講演 5】 座長：白石 大典 (湘南セラミック)

インプラント補綴とマテリアルについて

崎田 竜仁 (株CARES ソリューションセンター代表)

【教育講演 6】 座長：蒔田 哲也 (マキタ歯科クリニック)

残存歯の保護と歯列の連続性の維持

— 力のコントロールはできるだろうか? —

内田 剛也 (鶴見大学歯学部歯周病学講座臨床教授)

《 午後の部 》 13 : 00 ~

司会：中村 佐和子（中村歯科医院）

【特別講演 1】

座長：浅野 栄一郎（日本臨床歯科補綴学会理事長）

咬合の果たす役割の大きさ

小出 馨（日本歯科大学名誉教授）

【特別講演 2】

座長：宝崎 岳彦（平沢歯科）

「咬合基本治療」～多様なスプリント療法の活用～

筒井 照子（筒井塾 主宰）

【特別講演 3】

座長：神田 亨（かんだ歯科医院）

口から食べるための咬合・補綴治療 ～咬頭嵌合位の安定～

本多 正明（日本臨床歯科学会 副理事長・大阪支部最高顧問）

《 閉会式 》 16 : 30 ~

司会：中村 佐和子（中村歯科医院）

閉 会 の 辞

日本臨床歯科補綴学会副理事長 森野 隆

「歯科技工士の現状と未来」

公益社団法人 日本歯科技工士会 会長

森野 隆

近年の少子高齢化の進展による歯科医療需要の変化に加え、昨今の ICT や AI の発達による歯科医療技術の向上に伴い、歯科技工士を取り巻く環境は大きく変化してきています。これらの状況を正確に把握するためには、根拠に基づく正しい情報が不可欠なのですが、実際は信頼に値するエビデンスに達していない数値や事柄が多く用いられているのが現状です。

厚生労働省も数年前から歯科技工士に関して、歯科技工業務の調査研究、さらに歯科技工士の人材確保等の検討会を開催しており、これらの事業と協議は今後も継続して行われていくことになっています。これらの中で提示されてきた報告書には、歯科技工士の現状は、就業歯科技工士数がここ数年横ばいで経過している一方で、その内訳は 50 歳以上の割合が増加傾向を示していると記載されています。また同時に、歯科技工士を志す人の減少と、免許取得者の就業率の低下がいずれも顕著であり、早急な対策を講じることが急務で、これはまさしく歯科医療にとって由々しき事態に直面しているとしています。

日本では、今後も総人口の減少が加速していきませんが、一方高齢者の人口は大きく変わらず人口比率は増大していくと推定されていますので、デジタル化などにより歯科技工業務の効率化が進んでも、歯科技工士は今後も国民の健康維持増進のために大きな役割を担う必要不可欠な職種であることに違いはありません。

私は、日本臨床歯科補綴学会副理事長と同時に、公益社団法人日本歯科技工士会会長を拝命しております関係で、毎日多くの情報が入ってまいります。今回の講演では、本学術大会にご参加の皆様にも、厚生労働省が行っている「衛生行政報告例」などから歯科技工士をとりまく現状を、客観的資料を用いてお示しし、私の考えるこれからの歯科技工士の明るい未来について、今後の歯科医療の動向や急速に進んでいるデジタル化等の歯科技工技術の進歩も予測して解説させていただきます。



講師紹介

森野 隆 もりの たかし

公益社団法人 日本歯科技工士会 会長

【略歴】

- 1984年 沼津歯科技工専門学校卒業
- 1993年 歯科技工所開設
- 2008年 社団法人静岡県歯科技工士会理事
- 2013年 公益社団法人静岡県歯科技工士会副会長（～現在）
静岡県歯科技工士連盟副会長（～現在）
- 2014年 公益社団法人日本歯科技工士会常務理事
- 2016年 公益社団法人日本歯科技工士会副会長
- 2022年 公益社団法人日本歯科技工士会会長（～現在）

【所属学会・役職】

- 公益社団法人日本歯科技工士会会長
- 日本臨床歯科補綴学会 副理事長
- 一般社団法人日本歯科技工学会 監事
- 全国歯科技工士労災保険センター 理事長
- 公益財団法人歯科医療振興財団 理事
- 公益社団法人日本歯科医師会各検討会委員
- 一般財団法人国際医療技術財団 評議員
- 厚生労働省「歯科技工士に関する検討会」構成員
- 8020 推進財団 評議員
- 一般社団法人日本歯科技工学会 専門歯科技工士
- 日本臨床歯科補綴学会認定 専門歯科技工士
- 日本臨床歯科補綴研修会 インストラクター
- 日本スポーツ歯科医学会認定 マウスガードテクニカルインストラクター
- ・日本歯科技工士会所属、・日本歯科技工士学会所属・日本臨床歯科補綴学会所属
- ・日本顎咬合学会所属、・日本スポーツ歯科医学会所属

【主な著書】

- ・基本クラスプデンチャーの設計（共著・医歯薬出版）
- ・クリニカルクラスプデンチャー（共著・医歯薬出版）
- ・デザインング・コンプリートデンチャー（共著・医歯薬出版）

以上

残存組織の保全と機能回復率の向上を両立させ 健康長寿を目指す

医療法人社団 Smile Art 理事長

田中 希代子

いよいよ人生 100 年時代を迎え、歯科の果たす役割の重要性が注目されている。それに伴い、訪問歯科診療もより整備され、患者が寿命を全うするまで口腔内の健康維持に関わる環境も充実してきた。

それは、私たち歯科医療従事者にとって、やり甲斐がある一方で、歯科治療における責任がさらに重大になってきたとも言える。

患者の健康長寿をサポートするためには、より予知性の高い歯科治療が求められる。小出馨先生は、講義や書籍の中で、「歯科治療の原則は、残存組織保全と機能回復率向上の両立を図ることであり、残存組織の状態と失われた機能に対する十分な診査・診断のうえで、この原則に則り関連する数多くの因子を漏れることなく適切に計画に盛り込むことが治療の予知性を高める鍵である」と述べられている。

私は、日々の臨床の中で、この概念に基づき、治療計画を立てていくことの重要性を実感してきた。患者は、適切な歯科治療によって、口腔内がアンチエイジングし、心身共に若返り、より健康的になる。

今回、私が経験した下記に示す 4 症例を供覧させていただき、健康長寿全うのために果たす歯科の役割の重要性を、先生方と共に確認させていただけたら幸いである。

- ・ 40 代、女性、予知性の低い歯を優先的に便宜抜歯し、全顎的な矯正治療を行い、咬合再建を図った症例
- ・ 40 代、女性、上下顎前歯部に歯周組織再生治療を行い、その後部分矯正治療を行い、下顎臼歯部にインプラント補綴を、上顎臼歯部に部分床義歯を用いて咬合再建を図った症例
- ・ 60 代、男性、顎関節症を伴う酸蝕症の患者に、インプラント補綴と咬合面ラミネートベニア等を用いて咬合再建を図った症例
- ・ 50 代、男性、下顎に抜歯即時埋入即時負荷のインプラント補綴を、上顎に総義歯を用いて咬合再建を図った症例



講師紹介

田中 希代子 たなか きよこ

医療法人社団 Smile Art 理事長

【略歴】

- 1987年 長崎大学歯学部卒業 同大学附属病院矯正歯科学講座入局
- 1992年 たなか歯科医院開業
- 1993年 日本矯正歯科学会認定医取得
- 2002年 日本臨床歯科補綴研修会 8ヶ月コース受講
- 2005年 日本臨床歯科補綴研修会 8ヶ月コース インストラクター就任
- 2016年 日本臨床歯科補綴学会顎関節と噛み合わせ専門医取得

【所属学会】

- 日本臨床歯科補綴学会
- 日本矯正歯科学会、近畿東海矯正歯科学会
- 日本口蓋裂学会
- 日本臨床歯周病学会
- A. A. P. (アメリカ歯周病学会)
- O. J.

【掲載書籍・論文・講演実績】

- 2006.3 日本臨床歯科補綴学会総会
- 2008.6 「行列のできる歯科医院4」(共著・デンタルダイヤモンド)
- 2009.8 「健康な人が通い続けたくなる仕組みづくり」(共著・オーラルケア)
- 2009.12 JADS 総会、「臨床機能咬合学」(執筆協力・医歯薬出版)
- 2010.6 ハーバード大学
- 2010.12 JIADS 総会 (シンポジスト)
- 2011.5 ミラノ大学
- 2011.2 日本臨床歯科補綴学会総会、日本臨床歯周病学会年次大会
- 2012.11 日本顎咬合学会年次大会
- 2014.10 「ザ・クリニカルデンティストリー」(執筆協力・クインテッセンス)
- 2015.11 ISPPS (国際歯周形成外科学会)
- 2017.12 JIADS 総会 (シンポジスト)
- 2020.3 「基本クラスプデンチャーの設計」(共著・医歯薬出版)

以上

咬合不調和の治療で姿勢も改善する

RYOMA Dental Technician's Office

藤田 良磨

日本では国民の長寿により超高齢社会が到来し、高齢化率は現在 29%を超えていて、その値は今後も当分の間増加して行くと推定されています。近年、長く健康に生きる健康寿命への関心が高まり、同時に歯科の果たしている役割もようやく広く認識されてきています。

患者に対する日常の歯科治療は多岐にわたりますが、その中で避けては通れないものに有床義歯による欠損補綴治療があげられます。現在、日本では有床義歯を使用している人の割合は年齢が増すにつれて高くなり、後期高齢者では 84%にまで達しています。また、補綴治療全体にしめるパーシャルデンチャーの割合は、ここ数十年間ずっと約 40%をしめています。このように、我が国において有床義歯治療、特にパーシャルデンチャーは今後も重要な治療手段となっていく、国民の QOL の向上に必要不可欠なものと考えられます。

そして、歯科補綴治療の分野では、顎口腔系の機能との調和を図ることが原則であり、その影響は筋や顎関節はもちろんのこと、顔貌や全身のバランス、身体運動能力にまで及ぶとされています。

本講演では、インプラント治療を含めた全顎的補綴治療を受けたものの、咬合の不調和によって顎口腔系の機能障害が生じた患者に対して、パーシャルパラレルミリングによるリジットサポートを構成した有床義歯治療の有効性を示します。また、本症例では全身の身体姿勢バランスの改善まで生じたことが確認できましたので、その結果についても報告させていただきます。

また、日本臨床歯科補綴学会の基本 8 ヶ月コースで推奨されている『顎機能に調和した補綴治療』のための、歯科医師と歯科技工士の知識と技術の共通認識により、チェアサイドとラボサイドの円滑なコミュニケーションを図ることができます。おのずと歯科医師と歯科技工士間の連携がスムーズになって、日々の臨床が更に充実して楽しいものとなったことも、ご報告させていただきます。

本講演会が、皆様の日常臨床の一助となり、少しでもお役に立てれば幸いです。



講師紹介

藤田 良磨 ふじたりょうま

RYOMA Dental Technician's Office 代表

【略歴】

- 2000年 旭川歯科学院専門学校 歯科技工科 卒業
- 2001年 北海道医療大学歯科技工研修科 卒業
星デンタルラボラトリー 入社
- 2008年 札幌デンタルラボラトリー 入社
- 2014年 北海道医療大学歯科クリニック 歯科技工部 勤務
- 2018年 RYOMA Dental Technician's Office 開設

【所属学会】

- 日本歯科技工学会
- 日本臨床歯科補綴学会
- 日本補綴歯科学会
- 日本口腔インプラント学会
- 日本医用歯科機器学会
- 日本歯科医療管理学会
- NAAD研修会

【受賞】

- 日本歯科技工士会歯科技工技術や機材等の研究開発に関する表彰受賞(2020)

【取得特許】

- ミッドラインマーカースペック取得 (2019)

【書籍・論文・学会発表】

- ・咬合の7要素を踏まえた機能と審美への対応 (日本臨床歯科補綴学会 2016)
- ・インプラント上部構造の製作におけるレーザー (ミッドラインマーカースペック) の応用 (日本口腔インプラント学会 2019)
- ・今求められる咬合 (日本歯科技工学会 2021)
- ・咬合の7要素を踏まえた機能と審美への対応 (歯科技工 2016)
- ・ラボオーナーに聞く! 開業・経営 Q&A, 歯科技工 2020
- ・ミッドラインマーカースペックを用いた正確な顔面正中の再現 (日本歯技 2020)
- ・顔面正中を正確に再現するための装置の開発と使用法 (歯科技工 2022)

以上

舌を診て姿勢の乱れから全身への影響に気づく

Japan United Colleagues 会長

小山 浩一郎

低位咬合や早期接触など咬合の不調和の影響で、下顎の偏位を招来し、表情筋の過緊張が生じ、それに引き続き頭位の側屈を惹起、それが側頸筋、肩部、背部の筋群にも影響し、姿勢の乱れが生じ、ひいては脚長差をも引き起こす可能性があることは、既に小出馨先生らによって解説されている。また、頭位の回旋が下顎の偏位を惹起することを、同じく小出先生らのグループが実験で明らかにされている。

一方、演者は頭位の回旋が挺舌時の舌尖偏位を引き起こす可能性があることを、令和2年日本臨床歯科補綴学会30周年記念学術大会においてご報告申し上げた。その後、「頭位の側屈と回旋は同時に生じる」ことを述べた書籍に巡り合い、後頸筋群（上頭斜筋、下頭斜筋、小後頭直筋、大後頭直筋）が、頭位の側屈と回旋に大きく関与していることに気づかされた。また別の書籍では、回旋をより大きく引き起こすのは第2頸椎であることにも行き当たった。それにより、挺舌時舌尖偏位が頭位の側屈とも関係があり、これはすなわち姿勢変化とも関係があるのではないかと考えるに至った。

咬合の不調和から全身の筋肉に過緊張が生じ、姿勢変化にまで及んでしまうと、もはや咬合のみでは問題は解決しない。当院では、そのような患者様について、作業療法士の先生と連携を取り、歯科治療前に姿勢調整をしていただくことで対応している。挺舌時舌尖偏位を引き起こすのは、外舌筋のひとつである茎突舌筋の過緊張であろうと考えているが、姿勢調整を要する患者様の舌をリラクゼーションさせることで、後頸筋群が緩み、全身の姿勢調整がより容易になることも経験するところである。

小出馨先生が（有）東総システム（埼玉県上尾市小敷谷 696-19）と開発された姿勢・足圧測定、分析システム「ToMoCo-LL」は、患者様の姿勢や重心動揺、足圧分布を精度よく、測定・分析できるシステムである。今回、その ToMoCo-LL を用いて患者様の姿勢・足圧・重心動揺などを測定するとともに、併せて挺舌時舌尖偏位や咬合などとの関わりについても検討し考察を加えることが出来たので、供覧させていただく。



講師紹介

小山 浩一郎 おやま こういちろう

Japan United Colleagues 会長

【略歴】

1988年 長崎大学歯学部卒業

長崎大学歯学部保存学第一講座助手

長崎大学歯学部付属病院文部教官

1994年 「おやま歯科」開設（長崎市八幡町にて）

2008年 長崎県長崎市麴屋町に「おやま歯科中通り診療所」を移転開設し現在に至る

【所属学会】

Japan United Colleagues 会長

日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会・アメリカ歯周病学会（AAP）

日本口腔インプラント学会

近未来オステオインプラント学会専門医・日本補綴歯科学会認定医

日本臨床歯科補綴学会理事・日本臨床歯科補綴学会専門医

日本顎関節学会・日本顎咬合学会認定医・日本審美歯科学会

日本臨床歯科補綴研修会インストラクター

日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト

【掲載書籍】

- ・SHILLA SYSTEM の概念とその臨床活用（クインテッセンス出版 2006年）
- ・もう迷わない 根分岐部病変、JUC 編（日本歯科評論社 2013年）
- ・審美歯科協会30周年記念誌（クインテッセンス出版 2014年）
- ・解剖から学ぶ 口腔ケア・口腔リハビリの手技とその実力
（デンタルダイヤモンド社 2018年）
- ・歯科臨床の知恵と技（医歯薬出版 2021年）
- ・舌の診かた（医歯薬出版 2022年）

以上

インプラント補綴とマテリアルについて

(株) CARES ソリューションセンター代表

崎田 竜仁

近年、口腔内スキャナーの普及に伴い、歯科医療の現場は、アナログからデジタルへと急速に進化しています。歯科技工操作も鋳造からデザイン加工へと大きく変化し、CAD/CAM システムは歯科技工にとって必要不可欠なものとなり、現在ではデジタルワークフローが既に確立されている状況にあります。

また、近年のジルコニアに関する研究開発面での発展はめざましく、これにともなって審美補綴においても金属に代わってその優れた曲げ強度や破壊靱性の高さからジルコニアの普及が著しい速さで進み、ジルコニアボンディングクラウンへと大きく進化してきました。

さらに、このジルコニアに関してはデジタル化が進むにつれて、臨床の現場での需要がジルコニアボンディングクラウンからモノリシックジルコニアのステイン仕上げへと移行してきています。

インプラント補綴においても、現在では臼歯のモノリシックジルコニアのスクリーリテイン修復が大半を占めるようになっていきます。

今回の講演では、デジタル技工の今後の可能性を十分に考え、将来を見据えてどのようなマテリアルを実際を選択して補綴装置を製作しているのか、デジタル技工の現状を示させていただきます。

この歯科臨床の急速でめまぐるしい変化の真ただ中であって、少しでも皆様方の臨床の参考にしていただけると幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。



講師紹介

崎田 竜仁 さきた りゅうじ

(株) CARES ソリューションセンター代表

【略歴】

- 1986年 鹿児島歯科学院 歯科技工士科 卒業
- 1987年 国際デンタルアカデミー ラボテック 卒業
- 1997年 アートデンタルラボ 開業
- 2009年 株式会社鹿児島ミリングセンター 開業
- 2018年 株式会社 CARES ソリューションセンター 開業

【所属学会等】

- ・日本臨床歯科補綴学会
- ・日本デジタル歯科学会 代議員
- ・日本口腔インプラント学会
- ・JASD認定MGテクニカルインストラクター
- ・Wクリック
- ・ITI Fellow
- ・鹿児島歯科学院専門学校歯科技工士科 非常勤講師
- ・九州医療専門学校歯科技工士本科 非常勤講師
- ・日本臨床歯科補綴学会理事
- ・日本臨床歯科補綴研修会インストラクター
- ・日本臨床歯科補綴学会認定 顎関節と噛み合わせ専門歯科技工士

【書籍・掲載論文等】

- ・モノリシックジルコニア補綴装置の技工, 日本歯科評論別冊 2021 ジルコニア・レストレーションの現在 (日本歯科評論社)
- ・基本クラスプデンチャーの設計 (共著・医歯薬出版)
- ・クリニカルクラスプデンチャー (共著・医歯薬出版)
- ・デザインング・コンプリートデンチャー (共著・医歯薬出版)
- ・臨床機能咬合学-咬合の7要素によるオクルージョンの臨床 (共著・医歯薬出版)
- ・咬合器の大事なこと・デンタルエコー 連載第9回バーチャル咬合器のこれからと注意すべきポイント (共著・松風 2023)

以上

残存歯の保護と歯列の連続性の維持 —力のコントロールはできるだろうか?—

鶴見大学歯学部歯周病学講座臨床教授

内田 剛也

我が国は近い将来25%の人が100歳以上の寿命を持つと予測されています。このため65歳以上の方も貴重な労働力としての活躍が期待されています。その意味でも健康寿命の延伸は今後の日本にとって重要なテーマと感じています。8020の達成者の増加に伴い、口腔と全身の健康の関係が注目されるようになって来ました。「歯の喪失数が多いほど、認知症・心血管疾患・脳卒中のリスクは比例増加し、QOLは低下する。」もその一つだと思います。そして歯科治療においては「咬合の維持により健康寿命の延伸」が重要な使命であると思います。

近年「歯の喪失防止」が進む一方で4mm以上の歯周ポケットを有する割合は45歳以上で過半数と報告されています。そして歯周治療後の健康な歯周組織の維持には「炎症のない歯周組織と安定した咬合」が不可欠となります。しかし歯周治療後のメンテナンス時に抜歯となる原因の第1位が歯根破折であるというAxelssonらの報告から、「残存歯の保護と歯列の連続性の維持」には過重負担となる外傷性咬合に十分な配慮が必要となると日々の臨床からも感じています。

外傷性咬合との関連性が疑われるものとしてTCH(Tooth Contacting Habit:上下歯列接触癖)・態癖・習慣性咀嚼側などが考えられます。本講演では習慣性咀嚼側については、片側顎関節円板前方転位側と習慣性咀嚼側との一致性についてのMinagiらの報告に基づき、習慣性咀嚼側(関節円板前方転位側)に生じる、動揺を伴う進行した歯槽骨吸収、歯の病的移動や歯肉退縮との外傷的な咬合力との関連性について症例をとおして皆様と考えたいと思います。

最後に「力のコントロール」が困難と私が感じた症例に対して留意している事項について、口呼吸と低位舌との関連性にも触れたいと思います



講師紹介

内田 剛也 うちだ たけや

鶴見大学歯学部歯周病学講座 臨床教授

【略歴】

- 1986年 日本大学歯学部卒業
- 1990年 神奈川県川崎市にて内田歯科医院開設
- 2000年 川崎市荏宿小学校学校歯科医
- 2013年 日本本歯周病学会評議員
- 2014年 日本歯科大学新潟生命歯学部 非常勤講師（～2022年）
- 2015年 鶴見大学歯学部歯周病学講座 臨床教授（～現在）
- 2023年 日本歯周病学会理事

【所属学会】

- 日本臨床歯科補綴学会：顎関節と噛み合わせ専門医（第33号）
- 日本歯科補綴学会：指導医（第1225号）
- 日本歯周病学会：指導医（第154号）、歯周病専門医
- 日本顎関節学会：認定医（第20号）
- 日本臨床歯科医学会：指導医（第30号）
- 日本顎咬合学会咬み合せ：指導医（第742号）

【掲載書籍・論文】

- ・ 顎関節症状を有する重度慢性歯周炎患者への包括的治療の1症例，
内田 剛也，松島 友二，長野 孝俊，五味 一博，日本保存学会誌 2017；61巻
1号 P36-54
- ・ 習慣性咀嚼と顎関節症のかかわり＝噛む癖で起こる力のトラブル，内田 剛也，
デンタルダイヤモンド 2017；42巻9号 P25-45
- ・ 健やかに生きるための歯科医療 ～歯をまもる、咬合をまもる～
「健康な歯周環境を長期的に維持するには～歯周基本治療からみえてくる
もの～」，内田 剛也，平成26年度日本歯科医師会生涯研修セミナーDVD Part 1
- ・ 日常臨床における再生療法のテクニックと長期経過，伊藤 公一，内田 剛也，
日本歯科評論別冊 2009

以上

咬合が果たす役割の大きさ

日本歯科大学名誉教授
小出 馨

歯科の果たす役割は、歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による健全な諸機能の維持で、そこには絶大な価値があります。特に“歯科だけができる咬合治療”は、顎口腔系の機能、すなわち咀嚼、嚥下、呼吸、発語、口腔感覚、顔貌や審美性、頭位や姿勢の維持、身体運動能力などの重要な機能と密接に関連するばかりでなく、全身の健康維持にも大きく影響を及ぼす極めて重要な要素です。

さらに、咬合は前頭前野や海馬をはじめとする脳機能を活性化し、学習や記憶能力、生きることへの意欲の回復、精神・心理状態の改善にまで関連することが示されてきています。この様に、咬合は日々の生活の質を左右し、健康寿命や人生の満足度にまで大きくかかわっています。

また、人生100年時代を迎えた日本では、オーラルフレイルや口腔機能低下症、認知症、転倒などが、全身のさまざまな障害の引き金になっています。これらの誘因となる咬合の不調和を予防することが、寝たきりや要介護を回避して健康長寿に繋がるという認識は、近年一般の方々にも浸透してきています。

そして、若年者の歯列不正、日常の身体姿勢、経年的な咬耗、歯の喪失など、様々な要因で咬合にズレが生じると、下顎や頭位の偏位が引き起こされます。さらにその影響が筋膜連鎖や重心バランスと姿勢維持機能により、全身の歪みとなって伝搬し、徐々に様々な徴候が生じてくることとなります。

これらの咬合の不調和に起因する生体現象に対して、私達歯科医療者には適正な診断を行えることが求められています。そのうえで、メンテナンスケアと咬合治療を的確に行うことが、高齢者に限らず若年者に対しても顎口腔系のみならず全身的健康を長期的に維持するうえで極めて重要です。

今回の講演では、歯科医療者である歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士がアンダーグラジュエートでは教わることのなかった、咬合をはじめとする臨床でおさえておくべき顎口腔系の診断基準をご一緒に確認します。皆様方の日々の臨床に活かしていただけると、ありがたいです。



講師紹介

小出 馨 こいで かおる

日本歯科大学名誉教授

【略歴】

- 1979年 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- 1983年 日本歯科大学大学院修了（歯学博士）
- 1984年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第1講座講師
- 1988年 カナダ・トロント大学歯学部補綴学教室客員教授（2006年まで）
- 1989年 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第1講座助教授
- 1998年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授
日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学主任教授
- 1999年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院顎関節外来統括責任者併任
- 2001年 日本歯科大学新潟歯学部附属病院技工科長，技工研修科長併任
- 2022年 日本歯科大学名誉教授

【主な現在までの役職等】

日本国最高裁判所鑑定委員、日本補綴歯科学会監事、日本スポーツ歯科医学会監事、日本臨床歯科補綴学会顧問、日本補綴歯科学会理事、日本補綴歯科学会名誉会員、日本臨床歯科補綴学会会長、日本全身咬合学会副理事長、国際口腔インプラント会議日本部会副会長、日本スポーツ歯科医学会理事、日本顎関節学会理事、日本咀嚼学会理事、日本接着歯学会理事、日本歯科大学歯学会理事、日本審美歯科学会評議員

【主な受賞】

- 2002年 日本補綴歯科学会・優秀論文賞
- 2008年 アジア歯科補綴学会・最優秀学会発表賞
- 2015年 日本補綴歯科学会・学会賞
- 2016年 日本スポーツ歯科医学会・学会賞

【主な研究開発・特許等】

- ・プロアーチ咬合器シリーズ 全8機種（Ⅰ型，Ⅱ型，ⅢE型，Ⅰ-G型，Ⅱ-G型，ⅢE-G型，Ⅲ型，Ⅳ型）
- ・プロアーチ・フェイスボウ ・プラスチック咬合器ドリーム
- ・硬質レジン人工歯 e-Ha シリーズ（4歯連結ブレード臼歯Q、e-Ha 8 ポステリア，e-Ha 6 アンテリア）
- ・リングライズドオクルージョン用解剖学的硬質レジン臼歯人工歯：Bio-Lingua、4歯連結排列ジグ
- ・プロアーチ・オクルーザルプレーン・アナライザー・プロソマチック・ゴシックアーチトレーサー
- ・顎頭運動経路描記記録装置・シンプリファイドコンダイラームーブメント・レコーダー
- ・身体動態測定解析システム・バイオメカアナライザー（頭位・姿勢・足圧・重心動揺）その他 108 件

【近年の主な臨床関連著書】

- ・DAWSON・FUNCTIONAL OCCLUSION 監訳【改訂新版】（医歯薬出版 2013）
- ・クリニカルクラスデンチャー―第5版―（医歯薬出版 2018）
- ・新版・小出 馨の臨床が楽しくなる咬合治療（デンタルダイヤモンド 2019）
- ・デザインング・コンプリートデンチャー 書籍化第1版（医歯薬出版 2019）
- ・基本クラスデンチャーの設計―新版― 書籍化第1版（医歯薬出版 2020）
- ・臨床機能咬合学―咬合の7要素によるオクルージョンの臨床 書籍化第1版（医歯薬出版 2022）
- ・チェアサイドで行う顎機能検査のための基本機能解剖 書籍化第1版（医歯薬出版 2023）
- ・咬合器の大事なこと・デンタルエコー全10回連載（松風 2023）

以上

咬合基本治療 ～多様なスプリント療法の活用～

筒井塾主宰
筒井 照子

開業して 48 年になります。初めの前半は思うように治りませんでした。ナソロジーの咬合論の全盛の頃で、一生懸命習った通りにしたつもりなのですが、患者さんはその通りには治癒しないことを体験して来ました。「咬合って私には難しすぎる」とギブアップしていました。

今は納得して臨床が行えています。それは歯科界に「咬合基本治療」が欠けていたからだと思っています。

「炎症の基本治療」は臨床に定着しています。炎症の二大疾患であるカリエス、ペリオは主原因である「プラークを取る」ことから始めます。今はプラークの中で確定的治療としての歯周外科や補綴治療をすることはありません。

「生きることは咬合高径が低くなること」です。縦に立っている人間は加齢すると関節がすり減って、骨密度も減って、身長が低くなります。私達の守備範囲の中下顔面も、顎骨から短くなって、歯もすり減って、皮膚と筋肉が余り、「老け顔」になります。種々の生活習慣で体もバランスを崩し、顎位も偏位します。

「咬合治療」とは、いつも、いつも、咬合高径や偏位を元に戻してより、それから「確定的治療」としての修復治療や矯正治療をすることです。前者を「咬合基本治療」と名付けています。

咬合が偏位、低下（長顔系は臼歯が低くなると、前歯は開口する）した原因を探し、どこまで波及しているか？どこまで回復できるのか？責任分担は？と考えます。崩壊は持って生まれた顎顔面の個性差の中で壊れていきます。私はそれを筋肉、骨格、咀嚼パターンより SMC 分類と名付けています。長顔、短顔、Ⅱ級、Ⅲ級によって壊れていく道筋がだいたい決まっています。従って、元に戻す「スプリント療法」も壊れ方に沿った多種類のスプリントが必要です。

御理解頂けると幸いです。



講師紹介

筒井 照子 つついでるこ

筒井塾 主宰

【略歴】

- 1970年 福岡県立九州歯科大学卒業、同大学矯正歯科学教室入局
- 1975年 筒井歯科・矯正歯科医院開業
- 1980年 九州歯科大学矯正学教室にて歯学博士号を取得
- 1990年 日本矯正歯科学会認定医
- 2008年 日本矯正歯科学会臨床指導医
日本包括歯科臨床学会 顧問
スタディグループ筒井塾 主宰

【所属学会】

- ・日本矯正歯科学会
- ・九州矯正歯科学会
- ・日本口蓋裂学会
- ・日本顎咬合学会
- ・日本包括歯科臨床学会

【書籍】

- ・筒井昌秀・筒井照子（2003年）『包括歯科臨床』クインテッセンス出版
- ・筒井照子（2010年）『顔・からだ・バランスケア』医歯薬出版
- ・筒井照子・西林滋・小川晴也（2010年）『態癖-力のコントロール』クインテッセンス出版
- ・筒井照子・筒井祐介（2015年）『包括歯科臨床Ⅱ』クインテッセンス出版
- ・筒井照子・筒井武男・田代孝久（2017年）『スプリントに強くなろう！』クインテッセンス 出版
- ・筒井照子, 他, 編, 咬合療法研究会（2023年10月出版予定）
『口腔機能障害のリハビリテーション』—臨床マニュアル— クインテッセンス出版

【DVD】

- ・筒井昌秀・筒井照子（2007年）『DVD版 包括歯科臨床』クインテッセンス出版
- ・筒井昌秀・筒井照子（2008年）『筒井昌秀臨床DVD』1.2.3. クインテッセンス出版

【論文】

多数あり

以上

口から食べるための咬合・補綴治療～咬頭嵌合位の安定

日本臨床歯科学会 副理事長・大阪支部最高顧問

本多 正明

私が「咬合」に興味を持ち始めたのは、1973年にUSCの臨床家を対象にしたセミナーに参加したときからである。学生時代に「咬合」について学んだことはなく、もちろん実習講義もなかった。しかし、近年は多様化する歯科臨床において、MI機器や新しいマテリアルなどの開発により、過っては不可能と思われていた治療が可能になってきた。そこで、今一度「咬合」を口から食物を摂取するという観点から考えてみたい。動物は、食物を口から摂取し咀嚼・嚥下後、胃腸の働きで消化・吸収して栄養を取り入れることによって、生きていくことができる。私見ではあるが、ヒトは生きていくためだけに食物を咀嚼するのではなく、より良く生きていくために、QOLを維持、向上させ、咀嚼運動という医療用語や栄養摂取中心の食生活だけでなく、食材の味や食感すなわち、歯触り・舌触り・喉ごしなどにより食事を楽しむことが日常生活の中で大切だと考えている。

近年、よく使われているフレイルの中のメンタルフレイルとソーシャルフレイルが食生活にかかわりがある。その前段階であるオーラルフレイルを早く発見し、適切な処置やトレーニングを行うと、健康な状態にもどれる。しかし、歯、特に臼歯の喪失は、摂取量の低下や食欲低下を招き、また咬合支持の減少・喪失によりサルコペニアから咀嚼機能の低下が起こる。

顎口腔機能不全になった患者に対し、補綴学的に安定した「咬頭嵌合位」を確立できれば、歯根膜・粘膜・顎骨の中にある固有受容器を適正に刺激し、味わいのある食事ができ、オーラル・フレイルを抑えることが可能になってくると考える。

では、ここで歯科臨床の現場に目を向けてみたい。歯科治療の目的は大きく分けて「病因の除去・抑制」、「病的組織・咬合の改善」、「機能回復」、「審美性の改善」、そして「長期に亘る健康維持」である。この目的達成のため、日常臨床において治療計画を立てる場合、“どのように”するかを考える前に、病態を綿密に診て“なぜそのような状態になったのか”の原因追究を図ることが重要である。そのことによって、的確な診断能力を育むことができるし、臨床判断の誤りも防ぐことができる。

昨今、歯科臨床において Longevity を得るうえで、炎症のコントロールと力（咬合）のコントロールの重要性が強調されている。そして、力のコントロールをするうえで、現在最も重要視されているのは、咬頭嵌合位の安定である。

今回は、咬合・補綴治療について咬頭嵌合位の安定を中心に整理する。



講師紹介

本多 正明 ほんだ まさあき

日本臨床歯科学会 副理事長・大阪支部最高顧問

【略歴】

- 1970年 大阪歯科大学卒業
- 1978年 東大阪市にて本多歯科医院開設
- 1972年 Dr. Raymond Kim (南カリフォルニア大学) に師事 (～2003年)
- 2008年 朝日大学歯学部クラウンブリッジ補綴学 非常勤講師
- 2021年 大阪歯科大学大学院口腔インプラント学講座卒業
大阪歯科大学 歯学部 口腔インプラント学講座 臨床教授

【所属学会】

- 日本臨床歯科学会 副理事長
- 日本補綴歯科学会 会員
- 日本顎咬合学会 終身指導医
- 日本顎口腔機能学会 会員
- 日本口腔インプラント学会 会員
- 日本口腔リハビリテーション学会 会員
- 日本審美歯科学会 会員

【掲載書籍】

- 臨床歯周補綴 I, 臨床歯周補綴 II マニュアル&クリニック (第一歯科出版 1990, 1992)
- 成功に導く治療計画と臨床基準 (クインテッセンス出版株式会社 2011)
- 「欠損歯列」の読み方、「欠損補綴」の設計 (クインテッセンス出版株式会社 2013)
- RESTORATIVE DESIGN & PRACTICAL OCCLUSION 補綴設計&設計集
(医歯薬出版株式会社 2022)

【講演実績】

- 1996 The Art OF Esthetic Dentistry
- 1998 The Korean Academy of Stomatognathic Function and Occlusion
- 2011 Orthodontics UCLA School of Dentistry
- 2013 Biennial Joint Congress of CPS-JPS-KAP
- 2017 The Association of Gnathology in R. O. C.
- 2019 Chinese Academy of Esthetic Dentistry

以上

JCPDS